

新春所感

—日野病院よ、永遠なれ—



日野病院名誉病院長 玉井 嗣彦

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、晴れ晴れと希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は鳥取大学を定年退官後、日野路の日野病院に名誉病院長として赴任してから、早くも10度目の新春を迎えました。

全国の自治体病院の多くが経営赤字に苦しむなか、幸い、景山享弘日野町長さんを日野病院組合管理者とする本院は、櫃田豊病院長以下スタッフの頑張りもあって2007年度から黒字に転じ、その後も順調に推移しています。高度の先進医療から介護まで一貫したケアで、出かける医療、近づいていく医療も実践しながら、地域住民の健康と安全を守るための努力と工夫を日々重ねている結果が天にも通じたものと思いますが、昨秋、多数のご来賓をお招きして、皆生グランドホテル天水で盛大に開催された日野病院開院70周年及び移転10周年記念式典で、平井伸治鳥取県知事に「県内にもこのような黒字の病院があることは、郷土の大きな誇りである。大いに宣伝したい」と祝辞で取り上げていただき、我々関係者一同、大きな誇りと一層の喜びを感じたしだいです。

病院が保健、福祉サービスをあまり優先させますと、病院は「病気の人は来ないで下さい」ということになります。冗談はさておき、病院の基本はサイエンス、科学性に基づくケアが中心と思っています。

終末期医療、緩和ケアなども含めて、日野病院も今後益々その多様性を追及しなければなりません、「ケア」の語源は“ともに悲しむ”であることを忘れず、関係職員の方々とともに精進していきたいと思えます。あわせて、能勢隆之鳥取大学学長も記念講演で強調しておられましたが、病院の規模や機能を住民が決定する時代においては、医師を含む医療従事者の充実とあわせて、住民との信頼関係なくしてはこの種の山間地中核病院の将来はないものと思われます。

名誉病院長としては、ご列席の皆様の暖かいご理解と一層のご支援を心よりお願い申しあげ、記念式典での閉会の挨拶に代えさせていただいたしだいです。

『日野病院よ、永遠なれ！』の心境です。今年もどうかよろしくお祈り申し上げます。



A. Tamai

(カットは玉井名誉病院長)